

平成29年度 第3回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（確定稿）

- 開催日時：平成29年9月12日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室
- 出席委員：小野修平、荘雄一郎、冨澤佳代子、野崎信行、阿壽子、渡辺裕一
＜以上6名、敬称略、五十音順＞

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（平成29年7～8月）
 - 資料 2：コーディネート状況等月次報告（平成29年7～8月）
 - 資料 3：ボランティアコーディネート実績（平成29年7～8月）
 - 資料 4：スキルアップ講座 アンケート集計結果
 - 資料 5：夏！体験ボランティア西東京2017 参加者基本データ
 - 資料 6：夏！体験ボランティア西東京2017 学校・勤務先別参加者数および種別ごと参加者数
 - 資料 7：夏！体験ボランティア西東京2017 参加者アンケート集計結果
 - 資料 8：平成29年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（9～10月）
 - 資料 9：平成29年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（未定稿）案
 - 資料10：災害ボランティアセンタースタッフ養成講習会 事業実施企画書
 - 資料11：ボラフェス2017 事業実施企画書
 - 資料12：西東京ボランティア・市民活動センター強化プラン要約版
 - 資料13：西東京市社会福祉協議会 改革のためのアクションプラン（抜粋）
 - 資料14：平成29年度 西東京ボランティア・市民活動センター係 事務役割分担表
- 資料別冊：平成29年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録
＜確定稿＞
- 資料別冊：西東京市社会福祉協議会 第3次地域福祉活動計画（抜粋）
- 資料別冊：西東京市社会福祉協議会 第3次地域福祉活動計画 概要版（当日配布）

1. 報 告 事 項

(1). 業務報告（平成29年7月・8月）について（資料1～3）

- ・ボランティア保険の相談件数が減っていないのは、事故の相談が常にあるからなのか。
→事故の相談でなく、加入方法についての問い合わせがコンスタントにある状況である。
- ・ボランティア登録者数が盛り返してくる時期が例年より早いのではないかと。
→6月にボランティアはじめて講座を実施し、新規登録者が多くあったことが要因と思われる。

(2). スキルアップ講座の実施報告について（資料4）

- ・この講座テーマを提案したボランティアの感想はどうだったか。
→講座は満足してもらえただけでなく、その後、講座講師の事業所での活動に更につながった。
健常者も「健常者である」という障害があるという話が印象的であった。
- ・次回につなげていくものなのか。基礎講座のあとのスキルアップと思っていたが違うのか。

→基礎講座は特になく、日頃活動している方がプラスアルファで学びたい、疑問を解決するために学びたいといった内容となっている。

- ・次のスキルアップ講座の企画はどうなっているか。

→毎年行っているの、またボランティアの声を集めて企画していきたいと考えている。

(3)．夏！体験ボランティア西東京 2017 の実施報告について（資料5～7及び当日配布資料）

- ・アンケートを見ても満足度が高く、受入側も参加者も大事な機会となっていることがわかる。
- ・中学生の頃を思い出すと、誰かと一緒にする人が多いと思われる。チラシに「友達とぜひ一緒に」、「社会に役立つことをやりませんか」という文言を加える工夫も良いのではないか。
- ・やり取りは電話でなく「記録に残す」という意味で、メール対応をすると良い。手間がかからなくなった分は、チラシを送付してしまうのではなく、個別に訪問配布してはどうだろうか。
→決定通知は郵送しており、電話で伝えることはない。急ぎの場合、電話の上、FAXすることもある。またメールのやり取りは対応をしてない受入先もあり、一部のみとなっている。
→市内の学校には持参している。特に市立小中学校は全生徒分のチラシを持参している。
- ・学生の時間の無さに合わせて、活動時間を少なくすることも考慮できないだろうか。
→時間を自由に設定できる受け入れ先も既にある。
- ・保育園の延べ参加者数が突出しているが、市内全ての保育園に受け入れ依頼をしているのか。
→受け入れないと表明している保育園もあるため全てではない。個人情報の関係でもボランティアを受け入れられないと考えている施設もある。無理のない範囲でお願いをしている。
→延べ参加者数に関しては、高齢者は1日だけでも活動可能なところが多いが、保育園は3日以上などの設定も多いため、どうしても保育園の数字が大きくなってしまう。
- ・通所B型のデイでは、世代間交流という視点で小学生に来てほしい思いがあるようだ。将来の担い手という視点や親御さんと一緒にという視点で、繋がりができるきっかけとなれば良い。
→今回増やした3か所は小学生の受け入れを増やしたいということで、ゆめこらぼを通じて紹介してもらった活動団体である。このような形で今後も幅広く増やしていきたい。
- ・小学生がいるだけでも違う。具体的なかかわりは難しいと思うが、交流をしたりすることだけでも大切な機会であろう。
- ・1時間でも参加してみたいといった希望をどう受け入れるのか。欧米ではもっと自由な形で参加ができる文化となっている。楽しい時間だけでも構わないといった受入側の柔軟さも必要になってきたり、管理も難しくなるだろうが、検討から始めても良いだろう。
→細かな時間単位での参加メニュー作りをすれば、一歩進んだ形となる。ただ、管理や受入側の態勢の課題はある。既に数時間でも活動可という形で受け入れている活動先はあるが、長期間の活動が必要な受入先では、それ相応の考え方・理由があることも理解する必要がある。
- ・参加者募集のチラシが、小学生が活動したくなるようなチラシであるかどうかとも重要である。
→小学生用のふりがながふってあるチラシは用意しているが、活動先一覧はそこまでの配慮がされていないので、今後検討が必要と思われる。
- ・小学生の様子を見に来てもらっても良い。小学生の発想を学んだり、全校朝会で話しをしてももらっても良いだろう。
- ・小学校になぜ浸透しないか、配っているだけになってしまっているからではないだろうか。
PTA総会で親も巻き込んで話しをするのも一つの方法だろう。

- ・他地区ではあり方を検討しているようだが、西東京でも大事にしている事業なので、一緒に考えていく事業としてご理解いただきたい。

(4). 業務予定(平成 29 年 9 月・10 月)について (資料 8)

＊特にご意見無し

2. 審 議 事 項

(1). 平成 29 年度第 2 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録 (未定稿) 案について (資料 9)

＊確定稿とすることについて承認される。

3. 協 議 事 項

(1). 災害ボランティアセンタースタッフ養成講習会について(資料 10)

- ・広く公募される形にもなったので、レスキューバードとしても興味のある方との接点として期待している。
- ・地元に密着した内容を中心としながら、地元で活躍してくれる方が育ってくれれば良い。
→参加しやすくするため、災害ボランティアをしたい人を 1 日講座とし。災害ボランティアセンタースタッフとしてご活躍を希望されるを 4 日間の講座として分けて行うようにした。
→講師をお一人にした理由としては、同じ話しが繰り返されたり、話がつながらなかったりする部分がこれまではあったため、話しをまとめやすくするためにお一人とした。
- ・このような取り組みは、危機管理室は関係を持っているのか。
→この講習会については関わっていないが、災害ボランティアセンターに関しては市との協定のもと、社協が開設することになっており、協定に基づく取り組みに関しては補助金を交付していただいたり、協力をお願いしたりしている。
- ・学校も避難所運営協議会の関係で危機管理室との関係がある。避難所が立ち上がった際に災害ボランティアセンターや西東京レスキューバードがどう関わるのかを知りたいと思った。
- ・どのように連絡を取り合ってやっていくかを詰めている段階だろう。
- ・高齢者施設も市と協定を結び、具合の悪い高齢者を受け入れる方向になっているが、地域のお年寄りが集まってこないか不安になる。
→今の段階では厳しい。まだ詰めなくてはいけない部分は多くあるようだ。
- ・避難所が立ち上がり、2 次避難所に移っていくことが想定されている。また要支援者の名簿や各機関が把握している情報など、まだすり合わせが十分にされていない状況に見える。

(2). ボラフェス 2017 について (資料 11)

- ・来場予定の施設の方はどのような方々であるか。
→申し込みは取っていないため誰が来るかは不明。市内の高齢者施設に案内を出している。
- ・ボランティア登録ブースのようなものはあるか。
→ボラセンのブースを設置するので、受付を兼ねて、相談や登録を受け付ける予定である。

(3). アクションプラン（仮称）の策定について（資料１２～１４）

- ・アクションプラン（仮称）を作りたいが、みんなが実施したくなるような名称を付けたい。
また社協の策定したアクションプランにも重なってしまうので、キャッチフレーズ的なプランの名前を検討してほしい。
- ・ボラセンのマークに気球のイラストがあるが、名前が決まっていない。
- ・福しんごうくんは社協のイメージキャラクターとなっている。武蔵野大学の学生が作成した。
- ・事務役割分担表に終末ノート委託販売とあるが、どのようなものか。
→いわゆるエンディングノートである。ボラセンで 600 円で取り扱っている。
- ・都立高校の奉仕活動についてはどのようなものか。
→都立高校からの依頼に基づいて実施する。都立高校で奉仕活動の時間が無くなり、ここ 2 年間は依頼がない状況である。
- ・事務役割分担表を資料として添付した理由は、計画を作っていく中でミッションを明確にし、そのミッションに貢献できる事業かどうかを整理する際に使用する・確認する資料としてもらいたいと考え、今回用意してもらったものである。
- ・「〇〇をしようプラン」などプラン名は見た人・聞いた人がわかる名前が良い。
- ・長くなっても中身が見える・わかるようなものが良い。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

- 開催日時：平成 29 年 1 月 14 日（火） 18 時 30 分～ 20 時 30 分
- 開催場所：田無総合福祉センター 4 階 第 3 会議室

●以上をもって平成 29 年度第 3 回運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。